



TITLE:

表紙・その他

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・その他. 物理化学の進歩 1938, 12(4)

ISSUE DATE:

1938-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/46148>

RIGHT:

第十二卷

第四期

物理化学の進歩

編輯主幹 理學博士 堀 場 信 吉

目 次

原 報(歐文)

還元鐵に依る二酸化炭素の化學的收着(第二報)川 北 公 夫...105

ニッケル觸媒に依るエチレンの水素
添加の動力學(第二報)高温度の反應外 山 修...115

吾國に於ける物理化學研究の抄録(歐文)125

紹 介

一酸化炭素と水素より高壓下に於ける高級アルコールの合成に就て 小 野 禮 一...117

氣體吸着の統計力學(II)外 山 修...130

抄 録

27. $p\text{-H}_2$ と $o\text{-D}_2$ の NO による常磁性轉移(重水素の磁氣能率)(150) 28. 有機物の均一分解反應の抑制(150) 29. トリメチレンの複遊離店(151) 30. 波長 $546\text{ m}\mu$ 及び $436\text{ m}\mu$ の光によるアセチレンの臭素化(152) 31. ブタジエンの光重合(152) 32. 活性中心の特殊性より觀たる觸媒被毒(153) 33. シリカ・ゲルの搖變性(154) 34. 搖變性(Thixotropy)の絕對單位に依る測定(154) 35. 超音波の膠質溶液の粘度に及ぼす影響(156) 36. 膠質系に於ける van der Waals 力(156) 37. Dilatancy (157) 38. 銀の極微作用(Oligodinamie) I (157) 39. 限外顯微鏡の新光源高壓水銀燈(158)

日本物理化學研究會刊行

京都帝國大學理學部物理化學研究室內

日本物理化学研究會役員 (順序不同)

| | | | | | |
|--------|-----------|-----------|-------------|-----------|--|
| 會 長 | 大 幸 勇 吉 | | | | |
| 顧問 | 櫻 井 銳 二 | 蘆 井 榮 三 郎 | 上 田 宗 重 | | |
| 商 議 員 | 荒 勝 文 策 | 千 谷 利 三 | 花 島 孝 一 | 波 多 野 貞 夫 | |
| (ABC順) | 堀 場 信 吉 | 堀 内 壽 郎 | 市 川 龍 治 | 飯 盛 里 安 | |
| | 城 野 和 三 郎 | 片 山 正 夫 | 菊 地 正 士 | 木 村 正 路 | |
| | 喜 多 源 逸 | 松 野 吉 松 | 松 岡 俊 躬 | 仁 田 勇 | |
| | 鮫 島 實 三 郎 | 佐 々 木 申 二 | 四 手 井 次 太 郎 | 田 丸 節 郎 | |
| | 富 永 齊 | | | | |
| 理 事 長 | 堀 場 信 吉 | | | | |
| 常務理事 | 堀 場 信 吉 | | | | |
| 理 事 | 松 井 元 興 | 片 山 正 夫 | 喜 多 源 逸 | 仁 田 勇 | |
| 監 事 | 中 村 恒 三 郎 | 入 江 巖 | 津 川 眞 男 | 田 村 幹 雄 | |
| 主 事 | 守 谷 健 一 | | | | |

「物理化学の進歩」編輯役員

| | | | |
|------|---------|---------|-----------|
| 編輯主幹 | 堀 場 信 吉 | | |
| 編輯幹事 | 田 村 幹 雄 | | |
| 編輯委員 | 李 泰 圭 | 後 藤 康 平 | 萩 原 篤 太 郎 |
| | 久 米 泰 三 | 外 山 修 | 戸 川 治 之 |

→ * ←

名譽會員 並 賛助會員 (昭和十三年七月現在, ABC順)

名譽會員

松 井 元 興 殿 日曹製鋼株式會社殿

個人賛助會員

| | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 江 副 孫 右 衛 門 殿 | 濱 口 富 三 郎 殿 | 蒲 田 政 次 郎 殿 | 龜 田 利 吉 郎 殿 |
| 木 俣 泰 清 殿 | 金 平 洙 殿 | 中 村 ム キ 殿 | 清 水 侍 郎 殿 |
| 瀧 野 孫 二 殿 | 津 田 三 郎 殿 | 上 島 五 一 郎 殿 | 山 本 信 夫 殿 |

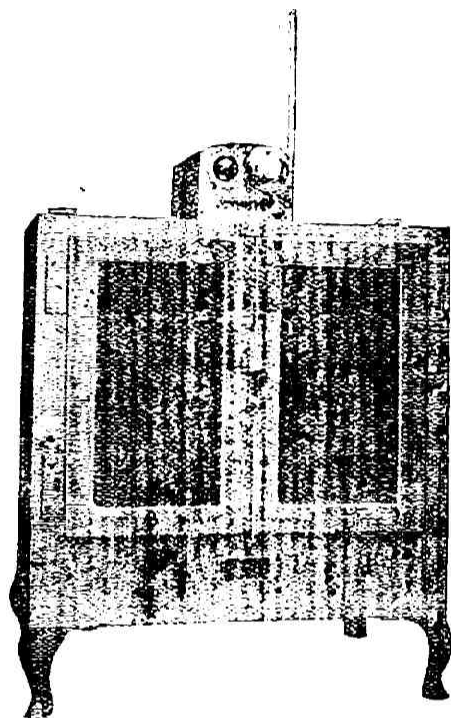
團體賛助會員

| | | |
|---------------|-------------|-----------------|
| 旭ベンベルグ朝鮮株式會社殿 | 朝鮮窒素肥料株式會社殿 | 第一工業製藥株式會社殿 |
| 大日本塗料株式會社殿 | 古河電氣工業株式會社殿 | イソライト工業株式會社殿 |
| 川西機械製作所殿 | 川崎造船所殿 | 國産工業株式會社殿 |
| コロイド製藥株式會社殿 | 九州曹達株式會社殿 | 滿洲電業株式會社殿 |
| 南滿洲鐵道株式會社殿 | 三菱電機株式會社殿 | 日本電池株式會社 |
| 日本板硝子株式會社殿 | 日本化學工業株式會社殿 | 日本光學工業株式會社殿 |
| 日本クロス工業株式會社殿 | 日本石油株式會社殿 | 日本製煉株式會社殿 |
| 日本香料藥品株式會社殿 | 日本染料製造株式會社殿 | 日本曹達株式會社殿 |
| 日本水素工業株式會社殿 | 岡田電氣商會殿 | オリエンタル寫眞工業株式會社殿 |
| 大阪窯業セメント株式會社殿 | フサ工業株式會社殿 | 堺化學工業株式會社殿 |
| 島津製作所殿 | 新興化學研究所殿 | 鹽野香料株式會社殿 |
| 白石工業株式會社殿 | 住友電線製造所殿 | 高砂香料株式會社殿 |
| 東邦瓦斯株式會社殿 | 東海電機製造株式會社殿 | 東京電氣株式會社殿 |
| わかもと本舗殿 | | |

⑤

三四番型電気定温乾燥器

貴所電氣定温乾燥器の型録を
御送り下さい。
御動務先
御宛所
御芳名



最高温度
150°C.

扉の全面が硝子張で
ある爲内部の觀察が
容易であります。

{本器以外に各種乾燥器が有り
ますから型録を御覧下さい。}

株式 千野製作所
會社

本社 東京市板橋區板橋町三丁目 電話 大塚1629, 4149
板橋1131, 1153
關西出張所 大阪市東區北濱三丁目 電話 北濱(23)3068

昭和13年8月25日印刷 物理化学の進歩
昭和13年8月31日發行 第12巻 第4號
(隔月刊行)
編輯兼發行者 堀 場 信 吉
京都帝國大學物理化學研究室
印刷者 福 井 松 之 助
京都府中京區錦町第三條南
印刷所 株 本 似 玉 堂
京都府中京區錦町第三條南

定價 60錢 (送料6錢)
購讀會員會費1年分3圓 (前金, 送料共)
發行所 日本物理化學研究會
京都帝國大學 振替・京都6047番
物理化學研究室內
發賣所 岩 波 書 店
東京市神田區一ツ橋二ノ三
丸善株式會社京都支店
京都市中京區三條御所町

◇ 本誌に關する批評, 注意, 要求等は京都帝國大學物理化學研究室內, 田村幹雄宛に願ひます。

THE REVIEW OF PHYSICAL CHEMISTRY OF JAPAN

Edited by Prof. S. Horiba, Kyôto Imperial University

Vol. XII, No. 4

August, 1938

Contents

Originals

- Kimio Kawakita: On the Chemisorption of Carbon Dioxide by Reduced
Iron (II). 105
- Osamu Toyama: The Kinetics of the Hydrogenation of Ethylene with
Nickel (II). 115

Abstracts of Physico-Chemical Literature in Japan 125

Reviews

- Reiiti Ono: Synthesis of Higher Alcohol from Carbon Monoxide and
Hydrogen under High Pressure. (II). 117
- Osamu Toyama: Statistical Mechanics of the Adsorption of Gases (II). 130

Abstracts 150

Published by

The Physico-Chemical Society of Japan

賛助會員各位

謹啓 時下愈々御清穆大賀の至りに奉存候
 陳者先般日本物理化學界全般の絶大なる御支持の下に設立
 仕候日本物理化學研究會の儀に關し甚だ勝手がましき御賛
 助方御願申上候處下記の如く各方面より多數の御後援を賜
 り感銘の極に有之候
 先は右御禮迄如斯御座候 敬具

昭和十三年八月

日本物理化學研究會

事業資金寄附者芳名

(1,000圓以上 申込順)

昭和十三年五月末現在

| | |
|-------------|-----------------------------|
| 金 30,000 圓也 | 藤 井 榮 三 郎 殿 |
| 金 14,000 圓也 | 堀 場 信 吉 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 上 昌 五 一 郎 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 日 本 製 鍊 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 日 本 香 料 藥 品 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 第 一 工 業 製 藥 株 式 會 社 殿 |
| 金 2,000 圓也 | 日 本 ク ロ ス 工 業 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 大 日 本 塗 料 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 堺 化 學 工 業 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 白 石 工 業 株 式 會 社 殿 |
| 金 2,000 圓也 | 龜 田 利 吉 郎 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 木 俣 泰 清 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 蒲 田 政 治 郎 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 東 京 電 氣 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 津 田 三 郎 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 瀧 野 孫 二 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 金 季 洙 殿 |
| 金 1,000 圓也 | わ か も と 本 舗 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 川 西 機 械 製 作 所 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 南 滿 洲 鐵 道 株 式 會 社 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 旭 ベ ン ペ ル グ 絹 絲 株 式 會 社 殿 |
| 金 12,500 圓也 | 藤 井 榮 三 郎 殿 (藤 井 獎 學 賞 基 金) |
| 金 1,000 圓也 | 濱 口 富 三 郎 殿 |
| 金 1,000 圓也 | 中 村 ユ キ 殿 |
| 金 5,000 圓也 | 日 本 電 池 株 式 會 社 殿 |
| 金 10,000 圓也 | 日 曹 製 鋼 株 式 會 社 殿 |

小計 金 94,500 圓也

| | |
|---------|--------------|
| 名 譽 會 員 | 10,000 圓 以 上 |
| 賛 助 會 員 | 1,000 圓 以 上 |

「物理化学の進歩」購読會員規定假案

- 第一條 日本物理化学研究会ノ機關誌タル本誌ノ直接購讀者ヲ購読會員トス
- 第二條 本誌ハ隔月(偶數月末日)發行トシ下記内容ヲ有ス
(一) 原報又ハ論說 (二) 紹介又ハ講義 (三) 抄録
- 第三條 會費ハ年參圓トシ前納スルモノトス。途中申込者ハ申込ノ月ヨリ之ヲ納入スルモノトス
- 第四條 終身購読會費ハ金五拾圓トシ既納ノ會費ヲ包含セス
- 第五條 既納ノ會費ハ如何ナル理由アルモ之ヲ返却セス
他ニ別冊トシテ物理化学文献集(新着外國雜誌ヨリ拔萃ス)ヲ毎月發行シ會費(年一圓)ニテ會員ニノミ頒布ス

本會ハ又吾國物理化学海外紹介ノ目的ヲ以テ別ニ年三回歐文號ヲ編纂シ本誌所載ノ「原報」及ビ吾國ニ於ケル物理化学研究ノ抄録ヲ掲載ス(會費年二圓)

△ 會員希望者ハ氏名、雜誌送附先ヲ明記シ振替京都六〇四七番ヘ會費ヲ拂込マレタシ

購読會員會費領收

購読會費 自昭和十三年六月一日 至昭和十三年七月卅一日 (檢稱略 來着順)

| | | | | |
|--------|--------|-------------|--------|--------|
| 外村 德三 | 田中 良雅 | 西 隆 雄 | 藤森 金三 | 戸川 嘉正 |
| 安崎 安太郎 | 森 田 萬 | 深川 友吉 | 平島 達司 | 淺岡 忠知 |
| 瀬谷 克己 | 渡邊 成人 | 菅 孝 男 | 渡邊 英造 | 櫻 照 義 |
| 鞍馬 壽雄 | 磯部 太郎 | 清浦 雷作 | 宗 像 英二 | 小原 龜太郎 |
| 牧島 象二 | 梅村 正 | 林 健 樹 | 井上 良三 | 柳 田 俊幸 |
| 青木 清 | 大島 英夫 | 筈 見 恒雄 | 松原 多摩喜 | 末次 豊太郎 |
| 勝 義 孝 | 矢田 武雄 | 一柳 文 二 | 淺川 太平 | 今大路 友孝 |
| 有井 癸巳雄 | 大塚 明郎 | 山田 櫻 | 瀧野 桂 六 | 重 富 静雄 |
| 千賀 實 | 正路 倫之助 | 加藤 辨三郎 | 岡村 誠 三 | 近 藤 五郎 |
| 神前 武和 | 岸 壽 雄 | (以上昭和十三年度分) | 歸 山 亮 | 石川 朝 邦 |

(以上昭和十四年度分)

歐 文 號

小原 龜太郎

文献集購読料金 (年々間ニ付五拾錢御送金ノ方ハ不足額至急御拂込下サレ度シ)

| | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|
| 田中 良雅 | 西 隆 雄 | 藤森 金三 | 戸川 嘉正 | 森 田 萬 |
| 平島 達司 | 菅 孝 男 | 渡邊 英造 | 小原 龜太郎 | 牧島 象二 |
| 梅村 正 | 川村 實 | 淺川 太平 | 有井 癸巳雄 | 大塚 明郎 |
| 近藤 五郎 | 瀬谷 克己 | 鞍馬 壽雄 | 磯部 太郎 | |

(以上昭和十三年度分)

月刊 自然科学雑誌

科 學

編輯

安藤廣太郎 岡田武松 柴田桂太 大河内正敏 小泉 丹
柴田雄次 橋田邦彦 坪井誠太郎 主任石原純

自然科学の進展目ざましく、學界の活躍益々盛んならんとする時、苟も之に心を寄する人々は自然科学全般の不斷の情勢を知るべき何等かの機關を必要とするであらう。

本誌は英の Nature, 米の Science, 佛の Revue Générale, 獨の Naturwissenschaften 等と使命を同じうするものであつて發刊以來8年の歳月を閲し、茲に全く我國唯一の一般自然科学雑誌としての内容・體裁・權威を具ふるに到つた。學徒諸士は本誌によつて初めて各自に必要な視野を得られるであらう。

9 月 號 内 容 梗 概

卷 頭

事變下に於ける科學振興

客 書

海膽の Bearing Reaction (加藤光次郎), 粗天秤の使用法に就て (新海重行), 武蔵野台地地下水の豪雨による異常上昇 (吉村信吉), 黒潮 (Kuroshio) と親潮 (Oyashio) の名前就て (宇田道隆), 智商萌出頻度の上下顎左右側分布に關する數學的法則 (尾崎安之助), 日本語の子音 s, h, k, t について (兼常清佐・宮内玉子), 高型連續性の構成, 第1~2報 (進藤益男), 電氣回路の“インピーダンス”測定の一方法及びその利用に就て (尾崎則男), 混合アルカリ溶液中に於ける纖維素の舉動. NaOH + KOH 溶液中に於ける纖維素の影響とアルカリ取得量 (齋藤義一), 混合アルカリ溶液中に於ける纖維素の舉動. LiOH + NaOH 溶液中に於ける纖維素の影響とアルカリ取得量 (齋藤義一), U 粒子の壽命に就て (湯川秀樹・坂田昌一・谷川安孝), 啓蒙とは生易しい仕事では無い (古川晴男)。

論 述

道野鶴松: 東洋古代金屬文化史の化學的研究 (III)

石川俊夫: 5月20日地震後の屈斜路地方見聞

學界展望

玉木英彦: 宇宙線の理論 (III), C. 觀測結果との比較

山口清三郎: 生體酸化の諸問題 (II)

A. v. Szent-Györgyi の研究業績その他

科學雜纂

平賀義美: 回顧隨想, 日本化學會創立六十周年記念に際して

後田文之助: 上世より近世に至る日本礦物學に及ぼした支那礦物學の影響 (II)

研究室概観

東京帝國大學理學部動物學教室の歴史 (III) (谷津直秀)

新刊書—研究抄録—科學時事—學會及個人消息

發行所 東京市神田區 岩波書店
一ツ橋二ノ三

定價 50 錢 (送料 2 錢)

半年分 ¥3.00, 一年分 ¥5.90 (寄刊號, 送料共)

電話九段(33)代番0187(4)

振替口座東京 20240

日本化学會

(明治十一年四月東京化学會トシテ創立)

日本化学會誌

月刊一冊金壹圓・一箇年前金拾貳圓(郵税共)

BULLETIN OF THE CHEMICAL SOCIETY OF JAPAN.

月刊一冊金五拾錢・一箇年前金六圓(郵税共)

購讀希望の向は邦文會誌の方は

東京市神田區表神保町三 東 京 堂
同 京橋區横町三丁目三 北 隆 館

に申込まれたし。

日本化学會規則摘要

第 二 條 本會は化学の進歩及び普及を圖るを以て目的とす

第 四 條 會員は化学に密接なる關係を有する個人又は團體たるへし(以下略)

細則第二條 會員は下の資格の一を備ふへし

- 一 化学若しくは化学に密接の關係ある學科を修め又は有益なる研究論文を公にしたること
- 一 化学上顯著の成績を挙げ若しくは化学工場に在りて責任ある位置に立ちたること
- 一 化学に密接なる關係を有する法人又はこれに相當する團體たること

第 六 條 入會を望む者は會員二名の紹介を以て學歴等を記入したる申込書を會長に差出すへし、其の可否は常議會に於て之を決す

第 十 五 條 常會は會務報告及學術講演等の爲め四八兩月を除き毎月之を開く(以下略)

第 十 七 條 年會は(中略)毎年四月之を開く(以下略)

第二十二條 本會は毎月一回日本化学會誌を發行す、日本化学會誌は之を邦文及歐文の二種に分つ

細則第二十六條 會誌には報文、綜説、抄録、雜録、記事等の欄を設く但し歐文會誌は報文を主とす

第二十三條 會誌は會員に配布し且學術普及の目的を以て之を發賣す

第二十四條 會費は一箇年金拾圓とす

第二十六條 會費は入會認可の月より納むへし

細則第三十三條 會費は毎年四月及び十月の二期に於て半年分宛(四月より九月までの分を四月に、十月より翌年三月までの分を十月に)徴集す(以下略)

細則第三十四條 入會者の會費は其際月割を以て該期分を徴集す

入會希望者にして紹介者なきときは學業履歴及び現職を特に詳記して事務所へ申込まるべし

明治-大正-昭和の聖代に亘る化學的文献の調査 に必要な鍵は茲に全く完成す

財団法人 日本化學研究會 編纂

日本化學總覽

新
刊

第一集 第七卷 [大正14—15年の文献を收載す]

主幹 理學博士 眞島利行

體裁 四六倍版・8ポイント密植・脊皮天金 内容 本文586頁・索引203頁

定價 金拾貳圓五拾錢 送料 金四拾五錢(内地)

新
刊

日本化學總覽は大正七年その編纂に着手せるにより約20年、啓明會、日本學術振興會其他各方面の援助を仰ぎ、今般漸く第七卷の刊行を了し、茲に明治-大正の化學的文献の抄録を完成せり。本邦に於ける一般化學の研究は勿論、化學工業・醫學・農學・藥學等に亘る廣汎なる研究の眞摯なる報告、特許等はその要粹を抄録して集載せり。故に我國の化學及び關係學術の大勢は一目瞭然たるものあり。化學的文献の探索竝に研究の進捗は本書により愈々能率的となるべく、化學に關係ある官衙、學校、會社、試験所は勿論、研究者、技術家諸賢は備へて以て自國の進歩を知ると共に、本邦特有の物資の研究利用に資せられ遺漏なからん事を勸奨す。

既刊出版物

- | | | |
|-------------------------------------|--------------|--------------|
| 日本化學總覽 第一集 [明治・大正年間の化學的文献集録] | | |
| 第一卷 [第10—31] | 第二卷 [第34—44] | 第三卷 [第47—大2] |
| 第四卷 [大3—6] | 第五卷 [大7—10] | 第六卷 [大11—13] |
| 日本化學總覽 第二集 [昭和以後の化學的文献を集録す] | | |
| 第一卷 [第2] | 第二卷* [第3] | 第三卷 [第4] |
| 第四卷 [第5] | 第五卷 [第6] | 第六卷 [第7] |
| 第七卷 [第8] | 第八卷 [第9] | 第九卷 [第10] |
| 第十卷 [第11] | 第十一卷 [第12] | × × × |

以上各卷 定價 ¥ 12.50 送料 ¥ 0.45 [但*に限り定價 ¥ 9.50]

内容見本進呈

財団法人

日本化學研究會

仙臺市米ヶ袋上丁拾番地
振替仙臺8158・電話仙臺3924

量子物理学

編輯 財団法人理化学研究所・研究員 理學博士 仁科芳雄

今や吾國は未曾有の重大時局に直面し、あらゆる方面に國力の擴充を要求せられつゝある。茲に量子物理学の各部門に就き本講座を刊行する所以のものは、自然界の認識を深め我が科學の基礎を培はんが爲であつて、量子物理学の充分なる明瞭發得は、更に新しき物理学への飛躍を準備し、科學産業の諸分野への應用を旺んならしむるものと信ずるからである。本講座に依り聊かなりとも此目的を達成し、我國文化に貢獻する所あらば、欣快これに過ぐるものはない。

全八卷★内容

| | | |
|---------------------|---|---|
| 量子力学(概論) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 雄 郎 郎 雄 彦 夫 郎 雄 二 郎 助 司 夫 勇 士 夫 勝 壯 雄 尊 廣 征 郎 雄 三 樹 一 |
| 量子力学(各論) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 芳 太 一 芳 英 由 太 善 申 正 一 之 誠 健 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 原子スペクトル及分子スペクトル | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 仁 科 永 科 林 木 岡 源 木 中 々 木 申 正 一 之 誠 健 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 量子化学(化学反應) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 小 振 英 由 太 善 申 正 一 之 誠 健 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 量子化学(原子價と化学反應の理論) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 山 永 科 林 木 岡 源 木 中 々 木 申 正 一 之 誠 健 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 量子化学(分子構造論) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 小 振 英 由 太 善 申 正 一 之 誠 健 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 論 象 線 素 線 | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 武 藤 堀 仁 菊 池 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 突 極 元 素 (實 驗 理 論) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 堀 仁 菊 池 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 量子力学(物理學) | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 堀 仁 菊 池 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 宇 宙 線 | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 堀 仁 菊 池 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |
| 重新量 子 物 理 學 と 天 文 學 | 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 理 研 所 員・理 博 士 | 堀 仁 菊 池 正 健 義 芳 千 芳 太 虎 利 秀 壽 |

規定

全8巻・菊判洋装・上装・函入・每巻總頁350頁以上
會 費・(各巻) 3圓50錢 送料(各) 1圓錢
申 込・一ヶ月以上の會費を添え本社又は書店へ申込下さい。
配 本・隔月毎に一卷宛配本1冊1ヶ月で完結豫定

新しい鍊金術
ラザフォード著 寮佐吉譯
四六縮刷版八〇頁
アート寫眞十三葉
價 七十五錢
送料 一〇錢

本書は量子物理学の世界的權威として有名な、理研所員・理博士のラザフォード氏が同大学女子學院の學生を相手に行った元素の觀測に關する講演を整理し且つ修正したもの、舊中世紀より現代に至る迄の力学を執軸として、望望の對稱させられてきた鍊金術の全貌は愛に全く開明された。

有機化学
大坂帝國大學教授 理學博士 小竹無二雄著
四六倍判上装
洋布裝函入美裝
(上巻) 五七〇頁
(下巻) 六三〇頁
價 拾圓
送料(各) 三〇錢

發兌

東京市神田區駿河臺三丁目九
電話神田1618・2624 振替東京46074

合資
會社

共 立 社

豫約會員募集

觸媒化學講座 全七卷

◇熒煌燦として輝く本講座の意義と其使命◇

自然界に於ける多くの現象が、接觸反應に依て行はれて居ることは、動植物の生活現象が觸媒の一種たる酵素の作用に基くことに依りて判る。斯の如き酵素の作用は各種の化學工業、例へば酒精、麥酒、清酒、葡萄酒、醬油等を總括する醸造工業より更に進では各種の有機酸、アセトン、高級アルコール、酸酢グリセリン等の化學工業に亘て應用されて居る。然るに吾人は今日觸媒の本體並に作用理論に關して知る所が極めて少いのである。

更に饒近に於ける多くの重要な化學反應が、觸媒の作用に依て工業化し得る條件に適合するに到つた合成アンモニア、合成メタノール、合成ガソリン、石炭液化、硬化油、合成酸、脂肪酸等如き其例である。而して又殆ど凡ての化學工業に於ては、その工業の一部に觸媒の作用を利用すると云ふも過言ではない。石油工業、ゴム工業、香料工業、染料工業、冷料工業、脂肪酸工業、合成樹脂工業、硫酸工業、其他の無機藥品工業及び有機藥品工業等皆然りである。

斯の如き化學工業の赫々たる發達にも拘らず、其の基礎をなす所の觸媒の理論に關しては、極めて遅々たる進歩を見るのみである。近き將來に於ても觸媒の理論に頓着なく、化學工業上の觸媒の應用は、経験及び實驗の結果に依り益々急速なる進展を續けるであらう。而して其後に於て結局は觸媒理論に導かれる所の化學工業の發展が来るであらう。

従て從來の數多き觸媒應用の現實的事實を網羅總括する事、並に是等を研究考查する事は、以上の經驗及び實驗に依て觸媒を工業的に應用する上にも、又觸媒の理論的研究の上にも共に缺く可らざる事である。此の意味に於て本講座に貢獻する所頗る大なるものがあると思ふ。(東京帝國大學工學部應用化學科教室工學博士田中芳雄教授推薦文より)

◇堂々完璧を誇る觸媒化學全貌の闡明と理論的研究◇

| 監修 | | 堀場 信吉 | 喜多 源 逸 |
|------------------------------------|--|--|--|
| | | 東京帝國大學 教授 東京帝國大學 教授 東京帝國大學 教授 | 東京帝國大學 教授 東京帝國大學 教授 東京帝國大學 教授 |
| 第1卷 觸媒作用の理論 | | 堀場 信吉著 | 久保田勉之助著 |
| 第2卷 有機化學に於ける觸媒反應 無機化學に於ける工業的諸問題 | | 久保田勉之助著 | 内田 俊一著 |
| 第3卷 硫酸製造法 アセチレン誘導體品 有機酸化學工業 | | 松井元太郎著 渡邊 卓著 桑 田 勉著 | 柴田勝太郎著 |
| 第4卷 アンモニア合成 メタノール合成 アセトン合成 | | 佐々木 雄著 | 藤村 建次著 吉村 倫之助著 熊谷 直記著 |
| 第5卷 含水性瓦斯 石炭液化 | | 三井 啓策著 山口 昌三著 | 坂口 謹一郎著 |
| 第6卷 石炭液素添 追卷 醇素 | | | |

◇御申込の要項◇

◇價 格 各卷金3圓也
全 7 卷 21圓也

◇送 料 内地 14 錢
臺灣樺太 34 錢 朝鮮滿洲 31 錢

◇申込方法 申込書はハッキリせん。

即時最寄の書店、デパート又は直接發行所へ御申込下さい。直接發行所への御申込は振替にて會費と送料を添へて御申込下さい。

◇刊行期日 昭和13年3月より昭和13年9月迄7ヶ月完結。毎月1回1巻宛配本の豫定。

發行所

東京市神田區
小川町2の12

尚 賢 堂

電話神田 2264 番
振替東京 58436 番御申込は最寄の書店
又は直接發行所へ!!(第1巻及び第3巻)
登 賣 中御申込次第
内容見本謹呈

纖維文獻集

京都帝國大學 日本化學纖維研究所 櫻田一郎氏 編輯
大阪帝大理學部 纖維科學研究所 吳祐吉氏

纖維關係の外國重要文獻を出来るだけ忠實丁寧に譯述解説して一般纖維研究好學家に御頒ちしたいと思ひます

文獻は新舊を問はず纖維の研究に對し重要なものを撰定して歴史的なものも又嶄新なものも之を網羅して行く考へであります。

即ち Herzog, Sponsler Dore, Meyer Mark, Hess Trogus, Katz, Andress, Freudenberg, Staudinger Astbury 等の纖維科學に關する基礎的な重要論文は勿論 Ost一派の醋酸纖維素に關する研究 Heuser, Rassow, Lieser 等のヴィスコースに關する研究其の他化學纖維に關する各方面の重要文獻を集録する豫定であります。(發行主意及内容見本贈呈)

毎月一回二十日發行 菊版約 60 頁 定價 一冊 60 錢 (送料 2 錢)

但し一年分前金 6 圓也(送料共)尙一年前金拂込御注文の方へは綴込表紙を送呈す

發行所 纖維文獻刊行會

大阪市西區京町堀通一丁目 會社紡織雜誌社內

電話 土佐堀 240・468 番 振替口座 大阪 111711 番

主 筆 工學博士 喜 多 源 逸

一冊 40 錢
(送料3錢)

月 刊 化 學 評 論

前金 一年4回
(送料共)

第 4 卷 第 7 號

- [129] 錯綜せられたる pH と解離恒数.....D. Pharm. Sa. 篠 原 龜 之 輔
 [130] 染料と染着現象に就て.....工學博士 小 田 良 平
 [131] 再生ゴムに関する知見.....工 學 士 莊 林 伍 郎
 [132] 石炭液化工業の發展と其將來.....工學博士 喜 多 源 逸

ニュースセクション： 硫酸工業の現況。重要ニュース蒐録

第 4 卷 第 8 號

- [133] 纖維の染色，仕上加工等に関する最近の文獻及び特許...工學博士 小 田 良 平
 [134] 双極子能率測定に於ける溶媒の影響.....理 學 士 小 寺 明
 [135] 醋酸エチルの合成法.....工 學 士 角 谷 清 明

ニュースセクション： 戦時下の化学工業。重要ニュース蒐録

化 學 評 論 社

編 輯 所

京都市吉田 京都帝國大學
工業化學教室 喜多研究室
電話上九八〇番(學内十九番)

發 行 所

大阪市西區京町堀通一丁目
電話土佐堀二四〇・四六八番
振替口座 大阪一七六一三番

理化學器械・醫學用器械

- ◇ 電 氣 化 學 器 械
- ◇ 特 殊 高 級 器 械
- ◇ 石 英 水 銀 燈
- ◇ バ イ レ ッ ク ス 製 品

山 下 製 作 所



京都市左京區吉田本町32番地
電話・上③1957 振替・大阪74984

特 殊 御 注 文 品 製 作

多年の経験と最新設備の
完備せる印刷所を御利用下さい

京都市柳馬場三條

株式會社似玉堂

(京都官報販賣所)

營業科目

各種出版物印刷
和洋帳簿製造
活版、石版印刷
オフセット印刷
三色版印刷
コロタイプ印刷

電話本局

長 四二二番
四二二番
四五〇番
四五〇番

振替口座

大 二五八番
東 二五八番
京 三三〇番
都 一五二番

電信略語

(ジ)